

1980年には20歳代人口は約1680万人で20歳代の投票率は63%だったので、何と1000万以上の若者票が投じられていた。が、2014年では20歳代人口は1280万人となり、しかも投票率が32%に下がったので、若者票は410万票と半分以下になってしまった。で、各地の選挙管理委員会がアニメ動画を制作したり、お笑い芸人やスポーツ選手を起用したりして特に18、19歳の新有権者に投票してもらおうと必死だ。

対する当の若者たちによる投票に行きたくなるアイデアであるが、博報堂の若者研究所リーダー、原田曜平さんの新著「18歳選挙世代は日本を変えるか」によれば、投票後の同窓会や婚活イベント、投票したら菓子やアイスをもらえる演出など色々あるが、何と「親子で投票に行こう、というキャンペーンも効くはずですよ」と力説する原田さん。最近の親子は仲良しで、母親と買い物や恋愛の相談をする“ママっ子男子”も増殖中だそう。ウワーッ！

いっぽうで、親子連れで投票所へ向かうのはよくあることだが、公職選挙法58条によれば、投票する人への同伴は就学前である幼児と、“やむを得ない事情がある”と投票所に判断された場合のみとなっており、秘密保持などのため投票所に入ることができる人は厳しく制限され、親が小学生を投票所内に連れて行くことを拒否されるケースが後を立たない。しかし、選挙権年齢が18歳に引き下げられた今こそ、親が小学生らに実際の投票を見せ、選挙や政治に親しませることが将来の若者票の増加を促すのではないか。選挙の時だけの場当たりの啓発活動ではなく、家庭と社会がじっくりと若者たちと向き合うことこそが真の主権者教育ではなからうか。聖書には、今から3500年前に神がイスラエルの民に律法を授けた記述があり、

「あなたがたは、私が、きょう、あなたがたを戒めるこの全ての言葉を心に納めなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえの全ての言葉を守り行なわせなさい。これは、あなたがたにとって、むなしい言葉ではなく、あなたがたのいのちであるからだ。」

申命記32章46-47節、

と祝福を得るために激励している。聖書を公職選挙法の如き“べからず集”と考えている人は多いが決してそうではない。それは、まず人が創造主である神を信じて祝福を受け、楽しいことも辛いこともあるが懸命に生き、次に体を張ってその子供たちを輝く未来へと導くものなのである。

2016-7-8

